撮影場所：那智の滝（和歌山県）

時代考証

― 新時代への期待 ―

国力 Vol. 37

去る4月16日 徳真会グループは、39回目の創業記念日を迎えました。
昭和56年（1981年）に新潟県旧新津市でユニット3台、スタッフ6名のどこにでも有る田舎の小さな歯科医院からスタートし、「昭和」、「平成」と続き、新たな「令和」の時代へとつないでゆく事に組織の創業者として、また、3つの時代を生きてきた日本人（昭和27年生まれ）の1人として、様々な思いが去来します。

時代は、その時々で様々なトレンドが生まれ、そして、それが長く続いてゆくものもありますが、反面、時間の流れの中で否定され、消えてゆくものも多くあります。
平成の初めの頃、まさに日本はバブルの最中にありました。
日本全国で、さかんに言われたのが「ゆとり」という言葉でした。
それまでの日本人の勤勉、勤労を否定する、またバブル的な新たな政策もいろいろ出ましたが、「ゆとり教育」に代表されるようにその多くが後年、日本の子供達の学力を低下させ、また日本の国力を低下させたことは実証済みの事かと思います。

そして外的には、平成の初めの頃の中国は経済的にも大変遅れていて、開放政策で海外からの企業投資、そして技術援助を求めていました。
徳真会グループも、1994年福建省アモイ市からの要請を受け1997年アモイ徳真会を設立、その後2000年より上海、蘇州、無錫と先端的な歯科の施設を13ヵ所開設し、人材育成、技術支援で多大な貢献と実績を築いてきました。
しかし、その成果は、中国スタッフ及び、行政にだまし取られた結果となり、徳真会の歴史の中で最も唾棄すべき汚点となってしまいました。

こうした、中国という国の実態を良く知る人間の一人として、チャイナリスクは年々益々大きくなってきているのは間違いない事実で、モラルの低い国家や国民が手段を選ばずに力を持つ事がどういう事か、今後、世界の一番のリスクが中国にあると断言できると思っています。

38年の組織創りで、いろいろな経験を積んできている中で言える事は、正義が悪に勝つというのは、あくまで願望であって、悪は意外としぶといと思っています。
世の中は正しい人（組織、国家）が勝つとは限らないという事です。

世の中を良くするには正しい人（組織、国家）が強くなるか強い人（組織、国家）が正しくなる
しかないと思っています。

二宮尊徳の有名な言葉に

経済なき　道徳は戯言であり
道徳なき　経済は犯罪である

という言葉があります。

今後、日本が本当に進むべき道は徳性教育を根幹として、強い国民、国家創りを継続してやり続ける事であって、残念ながら今日の日本の為政者の施策は、10年後、20年後の日本をもはや立ち直る事の出来ないところまで落としてしまう危険性をはらんでいると強く危惧しています。

新たな「令和」の時代が、日本の新たな発展の時代となる事を期待し、二宮尊徳の**「至誠」「勤労」「分度」「推譲」**の精神をいま一度学び直し、時代に負けない、また、時代を本当に正しい方向にけん引してゆく、次世代の優れたリーダーがこの日本から出てくる事を切に願うこの頃です。

令和元年　五月吉日

徳真会グループ
代表　松村 博史